

福岡・小倉城跡

北九州市および財北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室は、一九九〇年より継続的に小倉城跡の発掘調査を行なつてゐる。このな

遺跡及び木簡出土遺構の概要

6 5 遺跡の種類 城郭跡
遺跡の年代 龍て時代—江戸時代

3 発掘機関 (財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
4 調査担当者 谷口俊治・川上秀秋

を築いたというもので、この時築かれた三号石垣を検出した。また、天正一四（一五八六）・一五年の豊臣秀吉による島津平定後、豊前国企救・田川二郡六万石の大名として入城した毛利勝信（秀吉の家臣で旧名を森吉成という）によつて築かれたのが一号・二号・四号・七号の石垣である。各石垣の裾部には入り込んだ紫川の水が寄せてい

(3)(9)が2区中世三号石垣南側裾部腐植土から出土し、年代は永禄二年～天正一五年と推定している。また、(2)(5)(6)(7)(8)は1区中世七号石垣東側裾部暗青灰色砂礫層から出土し、天正一五年から細川忠興が小倉城の普請を行なう慶長七年（一六〇二）までの年代が考えられる。

の建設に伴つて調査した1
区と2区から九点の木簡が
出土した。

8
(1) 木簡の釋文・内容

(小倉)

も古く信憑性がある記録は、宗像神社置札にみられる、永禄二年（一五六九）、中國毛利氏が小倉の津に平城

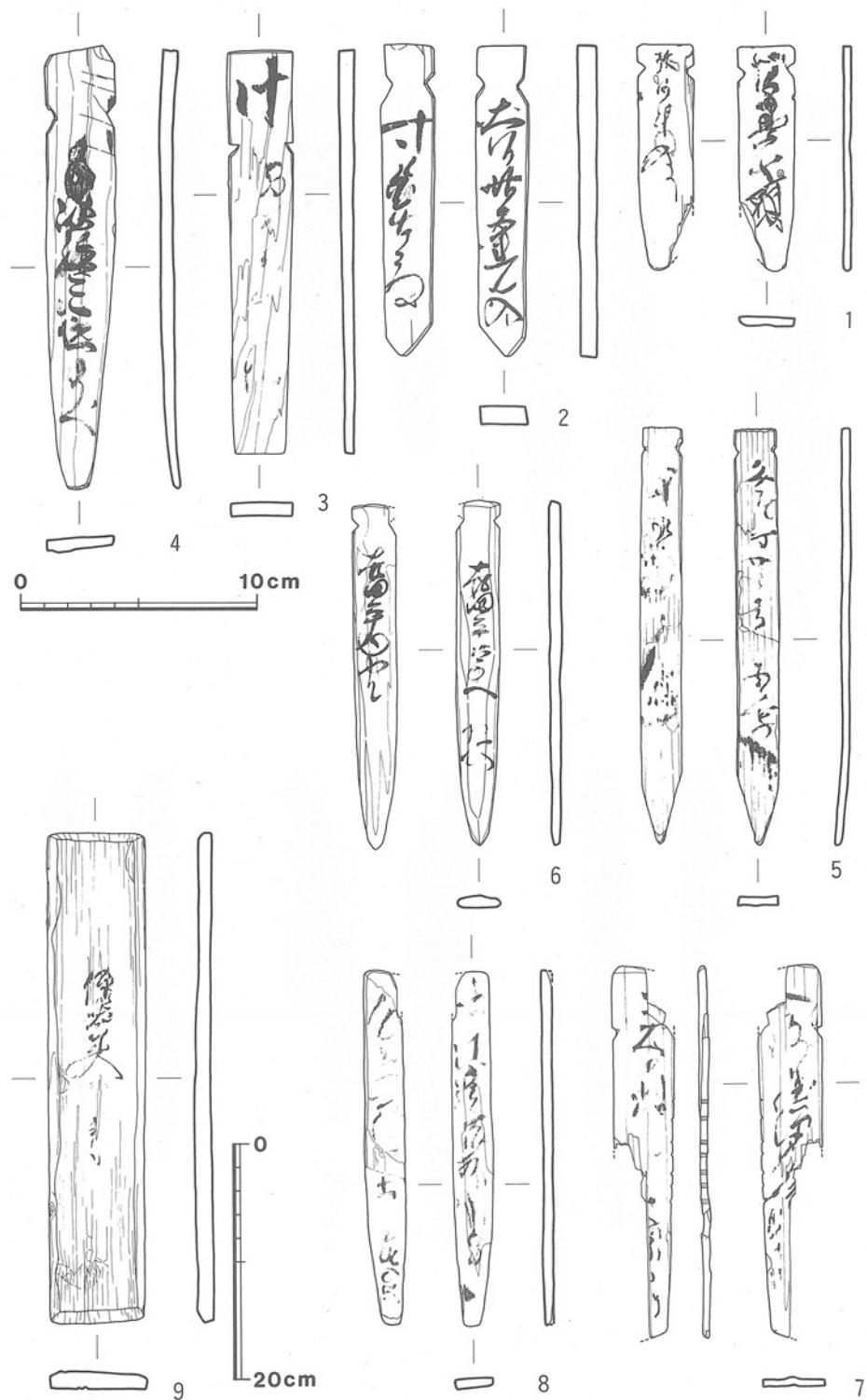
1

132×23×7.5 033

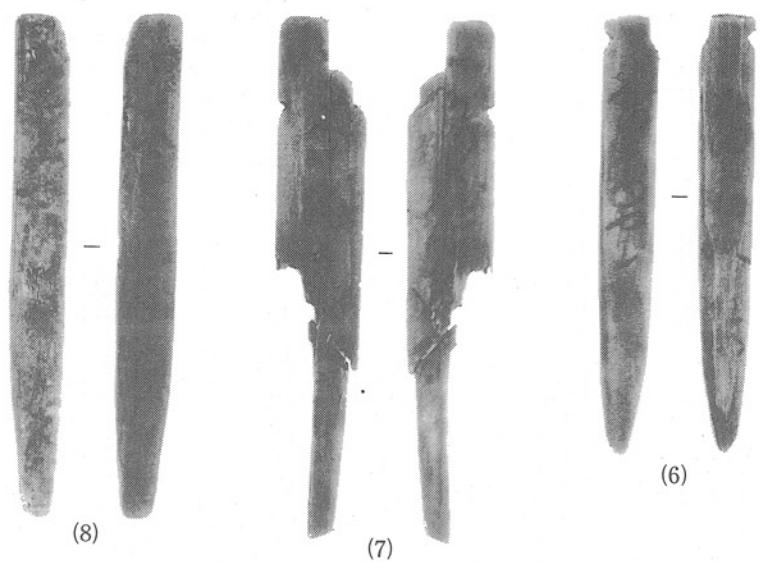
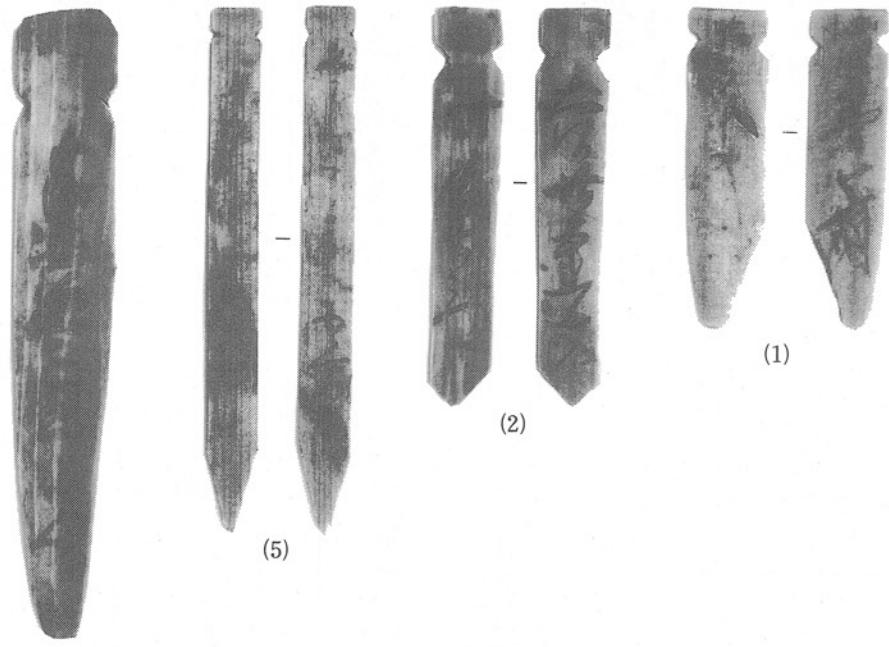
97×24×4 033

172×17×6.5 032

1995年出土の木簡



小倉城跡出土木簡実測図 (1~8は1/3、9は1/6)



小倉城跡出土木簡写真

(4) 「手嶋孫三郎書やそく」 188×29×6 033
 取りする。樹種はスギ。
 (谷口俊治)

(5) 「文五郎右エ門□五郎右エ門」 177×18×4 033

(6) 「吉田平内□□」 147×18×5.5 033

(7) 「吉田平内□□」 147×18×5.5 033

(8) 「大かね□□」 158×26.5×3.5 033

(9) 「住吉大明神」 417×84×15 011

(1) は下部が少し欠損している。樹種はヒノキ。(2)の樹種はケヤキ。
 (3)は表面と裏面の上部に墨書らしきものが認められるが判読できない。
 樹種不明。(4)は裏面に墨書はみられない。樹種はスギ。(5)は裏面にも墨書の痕跡が認められるが判読できない。樹種はスギ。(6)は上部が少し欠損している。樹種はヒノキ。(7)は中央部から二つに折れ、上部の一部と下部の縦半分が欠損する。樹種不明。(8)は両面に墨書が認められるが判読できない。樹種はスギ。(9)は表の周縁を面

会員

電子メールのアドレスについて

本会ではこのたび左記の通り電子メールのアドレスを登録いたしました。本会事務局への連絡、木簡出土情報の提供などにご利用下さい。

mokkan@nabunken.go.jp